

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立三里小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成度は全てにおいて十分達成の数値を示した。学校がチーム丸となった日頃からの取り組みの成果だと考える。</li> <li>特別支援学級の児童が増加傾向にあるため、校内支援体制作りをさらに充実させる必要がある。</li> <li>「地域との連携」については、コロナウイルスへの対応が緩和される中、地域の実態の変化や働き方改革の視点を含めて、各種団体との協議を進め、改善や見直しを図っていく必要がある。</li> </ul>
2 学校教育目標	ふれあい チャレンジ きらりかがやく 三里の子の育成 ～すべては子どもたちの笑顔のために～
3 本年度の重点目標	(1) 確かな学力の定着と指導力の向上 (2) 人間性豊かな心の育成 (3) 「志を高める教育」の深化

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			評価
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答した児童80%以上	A	・9月に行ったアンケートで、「全教科半分以上で話し合う活動を取り入れている」教師は100%であった。また、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と児童が95%で成果指標を達成していた。	A	・前回のアンケートと同じく全教科半分以上で話し合う活動を取り入れている。教師は100%であった。また、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と児童も77%と前回を上回り、成果指標を達成していた。	A	・引き続き話し合う活動の実践をお願いしたい。	・学力向上対策コーディネーター(宮原) ・研究主任(妹尾)
	○算数科の授業における考えたことを説明する活動の工夫を通して「主体的に自分の考えを筋道を立てて表現する力」を育む。	○学習等で、進んで自分の思いや考えを説明する活動の工夫を通して「主体的に自分の考えを筋道を立てて表現する力」を育む。	○全職員、研究授業を行う。 ・事前・事後研究会を必ず行い、今後の授業に生かす。 ・毎時間、児童が自分の言葉で学習内容について振り返り、発表する。	A	・「進んで自分の思いや考えを言葉や文章で友達に分かるように書いている」児童が90%で成果指標を達成していた。「考えたことを説明する活動の工夫を通して、自分の考えを筋道立てて表現できる児童の育成に取り組んでいる」教師が100%であった。2学期に全職員が研究授業を行う予定である。今後も自分の言葉で振り返りをする場面を設定し、取り組ませる。	A	・「進んで自分の思いや考えを言葉や文章で友達に分かるように書いている」児童が97%で、前回は上回り、成果指標を達成できた。「考えたことを説明する活動の工夫を通して、自分の考えを筋道立てて表現できる児童の育成に取り組んでいる」教師が今年も100%であった。全職員が研究授業を行い、「自分タイム」「交流タイム」「みんなのタイム」を通して、アウトプットする時間や書く時間を確保し、取り組ませることができた。	A	・主体的な活動は、子供たちにとって非常に大事な取組なので達成できてよかった。 ・全職員の研究授業は、させられている意識はないか、負担増にならないようにするべき。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○縦割り班活動を通して、班の仲間のよさを見付け、協力して活動できている児童90%以上をめざす。	A	・縦割り班集団活動を通して、自他の違いに気づき、互いのよさを認め合う関係をつくる。	A	・「縦わり班活動(共遊やそうじ)は、仲良く協力してできる」児童が100%で、前回は上回り、成果指標を達成できた。 ・日常生活や学校行事で全児童が活躍できる環境を設定することができた。また、班共遊や大縄跳びなどの活動の場を設けることで、班で協力して取り組む姿がみられた。	A	・伝統的縦割り班活動は、とても良い活動である。 ・小さな学校の良い点である。	特活部担当(小野) 各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取り組みの充実	○三里小「いじめゼロ宣言」を守って生活している児童を95%以上にする。 ○心のアンケートの実施率を100%とする。	A	・全教職員で全児童を見守り、いじめ・不登校等の未然防止と早期発見に努める。 ・「安心、自信、自由」を確認し、いじめゼロ宣言を、児童に浸透させる。	A	・毎月行っている心のアンケートにより、いじめ・不登校の未然防止と早期発見を十分に行うことができている。 ・6年生によるいじめゼロ宣言の発表を通して、全校児童への浸透は深まった。12月の人権週間・集会に向けて、全校や各級でも取り組みを行い、さらに浸透を図っていく。	A	・今後も取組を継続してほしい。 ・思ったことが言えない環境を作らないことが大事だと思う。	人権・同和教育担当者(川浪) 教育相談(岩崎) 道徳教育推進員(黒木) 各学年主任
●健康・体づくり	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」について肯定的な回答をした児童85%以上 ◎「将来の夢や何らかの目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)85%以上	A	・「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と感じている児童が100%で成果指標を達成していた。「自分のゆめに向かってがんばっている」6年生の児童は100%で、全校児童で見ても95%であった。今後もキャリア・パスポートを通じて、行事毎に振り返る時間を設け、見つめる機会を設定していく。また、朝の放送の「いきり三三三子の紹介」で全校児童を褒めて、認めていきながら、自己肯定感を高めていきたい。	A	・「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と感じている児童が94%で前回と比較して下がったが、成果指標は達成していた。「自分のゆめに向かってがんばっている」6年生の児童は前回と同じ95%であった。2学期は観劇会や吹奏楽コンサートといった行事を実施することで、将来のゆめの種を広げることができた。帰りの指導の中で、感想を発表するといった振り返る時間を設け、壁を認めると発表。朝の放送の「いきり三三三子の紹介」で全校児童を紹介することができた。	A	・何でも積極的に活動に取り組んでいる子供たちの姿をよく目にする。その際に、大人が褒めたり、声をかけたりすることによって、またがんばろうという意欲につながっていると感じる。	教務主任(宮原) 各学年主任
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童80%以上を目指す。 ○朝食喫食率95%以上を目指す。	A	・食につながる農業体験活動を通して、自分の「食に対する見方や考え方」を見直す機会をつくる。	A	・朝食の喫食率は97%であり、前回と比較して上回った。早寝・早起きに関しては、継続した声かけにより、児童らが意識し、行動することができていた。 ・「食の見直し」に関しては、特に、給食時間における給食委員会からの立派な話し合いをしている児童が多く、食への関心を高めることにつながったと考える。また、自分で量を調節するなど、残さず食べるために考えて行動する姿がさらに多く見られるようになった。	A	・朝食の喫食率は、ぜひ来年度100%を目指してほしい。	給食担当(黒木)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○たくましい体づくりの推進	○継続的な体作りを推進し、やり遂げる児童を90%以上にする。	B	・「朝ランニング」や「スポーツチャレンジ」への参加を奨励する。	A	・朝ランニングでは、98%の児童が意欲的に参加できており、継続して体作りを行うことができている。 ・スポーツチャレンジでは、まだ学校全体での取り組みができていないのでこれから取り組んでいく。	A	・朝ランニングの取組は、体づくりだけでなく、心づくりの面からも大事だと思う。	体育主任(松隈)
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	A	・「業務の見直し、効率化を図り、勤務時間を意識した働き方改革を行った」と100%の職員が回答した。時間外勤務の上限を意識した働き方ができていること等で、昨年度より、時間外勤務の平均時間を削減することができた。	A	・休日や時間外に行う地域行事や育友会会議などへの教職員の参加については、ほぼ必ずであった。 ・教職員へのアンケートからは業務の見直しや分業業務の効率化について100%の肯定的な回答を得た。運動時間を意識した働き方もできており、昨年度より更に時間外勤務時間を削減することができた。	A	・今後も業務の見直しを行い、働き方改革を進めてほしい。	管理職
●ICT利活用、行事、会議の更なる厳選	○会議の時間を1割削減(例:90分→80分)	○会議の内容を厳選し、回数又は協議内容を減らす。 ・ICTを活用し、電子回覧板等の機能を有効活用し、会議の時短を図るとともに、資料はデータのみとし、紙での配布を大幅に減らす。	A	・会議の内容について精選し、時間を意識した提案をすることで、会議の時間を1割削減することができている。 ・会議資料はペーパーレス化することができた。	A	・電子回覧板の活用などによって職員会議や職員連絡会の回数や時間を減らすことができた。今年度は、職員会議資料をデータにし、ペーパーレス化することができた。	A	・会議の時間、回数、開催方法等の見直しを今後も進めてほしい。 ・直線的な会議や理想のみに迫る危険性がないか確認を。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○開かれた学校づくり	○保護者や地域に信頼される学校づくり(教育効果を高める連携)	○学校の様子が分かるような情報が発信されていると答える率95%以上をめざす。 ○保護者や地域の方と連携・協力しながら、活動できていると答える率95%以上をめざす。	・定期的な学級通信や学校便り等を活用して、情報発信を積極的に実施する。 ・学校と育友会と地域との連携のもとに、新学習指導要領に沿った活動を推進する。	A	・「学級通信やお便りなどを利用して、保護者に情報発信を積極的にしているか」の問いには、保護者からの肯定的な回答が98%あり、目標値を下回ったが、「保護者や地域と連携協力しながら教育活動に取り組んでいるか」の問いには、95%の保護者から肯定的な回答を得ることができた。 ・今年度は、育友会主催行事が増えた。地域と連携した学習も増やすことができ、「保護者や地域と連携・協力して教育活動に取り組んでいる」と回答した教職員は100%であった。	A	・「学校は、学級通信や学校だより等を利用して情報発信を積極的にしているか」の問いには、保護者からの肯定的な回答が98%あり、目標値を下回ったが、「保護者や地域と連携協力しながら教育活動に取り組んでいるか」の問いには、95%の保護者から肯定的な回答を得ることができた。 ・今年度は、育友会主催行事が増えた。地域と連携した学習も増やすことができ、「保護者や地域と連携・協力して教育活動に取り組んでいる」と回答した教職員は100%であった。	A	・学校、保護者、地域が連携できる学校づくりができていると感じる。 ・学校だよりをよく読ませてもらっている。諸々にわたり情報発信ができていると感じる。	管理職

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成度は全てにおいて十分達成の数値を示した。職員全体で課題や目標を共通理解し、学校がチーム丸となった日頃からの取り組みの成果だと考える。</li> <li>特別支援学級の児童が増加傾向にあるため、校内支援体制作りをさらに充実させる必要がある。</li> <li>「地域との連携」については、地域の実態の変化や働き方改革の視点を含めて、各種団体と協議を重ね、今後も継続して改善や見直しを図っていく必要がある。</li> </ul>
----------------	---